

大分県

森林環境税の取組み実績

令和4年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

大分県森林環境税の概要	1
大分県森林環境税の積立・執行状況	2
令和4年度大分県森林環境税活用事業一覧表	3

I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり

1. 災害に強い森林づくり推進事業	4
2. 環境林整備事業	6
3. 安全・安心な道路環境創出事業	8
4. 鳥獣被害総合対策事業	10
5. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	11
6. 森と海をつなぐ環境保全推進事業(流木等被害対策緊急防除事業)	13
7. 豊かな水環境保全推進事業	14

II 森林資源と循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	16
2. 優良竹林化・利活用推進事業	18
3. 竹産業振興対策事業(竹林楽校)	20
4. 伝統工芸品産業振興事業	21

III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組

1. 魅力ある景観づくり推進事業	23
2. みんなで支える森林づくり推進事業	24
3. 森林・林業教育促進事業	
① 森林林業教育促進事業	33
② 森林林業教材作成事業	36
③ 森の先生派遣事業	37
④ 名樹とのふれあい事業	38
⑤ 次代の森林づくり活動リーダー育成事業	40
4. 森の子学校体験活動推進事業	42
5. 森林環境学習促進事業	44
6. 未来の環境を守る人づくり事業	46
7. 全国育樹祭開催準備事業	48
8. 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業	50
9. 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業	52

大分県森林環境税の概要

1 大分県森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 大分県森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
第Ⅲ期：平成28年度～令和2年度
第Ⅳ期：令和3年度～令和7年度
- 税 額 個人…年額 500円
法人…年額 1,000円～40,000円（法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億3千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 大分県森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、
多くの県民が参加する仕組みづくり

- I 県民意識の醸成
- II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- III 持続的経営が可能な森林づくり
- IV 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全に
つながる森林づくり

- I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

<第Ⅲ期 平成28年度～令和2年度>

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む
持続可能な森林づくり

- I 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

<第Ⅳ期 令和3年度～令和7年度>

テーマ：大分の豊かな森林と木のある
暮らしを次世代へ

- I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森林を守り親しみ、次世代につなぐ取組

大分県森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18~H22)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	13.7
II 環境を守り災害を防ぐ 森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	50.7
III 持続的経営が可能な 森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	28.6
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7.0
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23~H27)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に 配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林 資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ 次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅲ期> (H28~R2)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	H28	H29	H30	R1	R2	合計
基金積立額	315,240	317,844	321,592	322,917	324,642	1,602,235

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	H28	H29	H30	R1	R2	合計	割合(%)
I 県民生活と自然環境を 守る森林づくり	147,051	130,814	121,422	141,481	180,442	721,210	46.7
II 森林資源の循環利用に よる地域活性化	87,943	87,134	115,041	110,669	117,519	518,306	33.5
III 森にふれ親しみ、 森林づくりを支える取組	51,105	66,623	79,918	58,312	49,867	305,825	19.8
合計	286,099	284,571	316,381	310,462	347,828	1,545,341	100

<第Ⅳ期> (R3~R7)

1. 大分県森林環境税の積立状況 (千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
基金積立額	322,906	324,070	—	—	—	646,976

2. 大分県森林環境税の執行状況 (千円)

区分	年度別実績						
	R3	R4	R5	R6	R7	合計	割合(%)
I 県民生活と自然環境を 守る森林づくり	140,751	133,922	—	—	—	274,673	45.9
II 森林資源の循環利用に よる地域活性化	112,761	120,126	—	—	—	232,887	39.0
III 森にふれ親しみ、 森林づくりを支える取組	45,693	44,616	—	—	—	90,309	15.1
合計	299,205	298,664	0	0	0	597,869	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

令和4年度 大分県森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室	
I 県民の暮らしを守り 安全・安心の	1 災害に強い森林づくり	1 災害に強い森林づくり推進事業(旧:荒廃人工林緊急整備事業)(H30~)	23,617	森林整備室	
		2 環境林整備事業(R3~)	1,920	森林整備室	
		3 安全・安心な道路環境創出事業(R2~)	30,000	道路保全課	
	2 シカ被害対策の推進	4 鳥獣被害総合対策事業(旧:森林シカ被害防止総合対策事業)(H30~)	76,664	森との共生推進室	
		3 森・川・海をつなぐ環境の整備	5 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18~)	431	漁業管理課
	6 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18~)		2,552	循環社会推進課	
	7 豊かな水環境保全推進事業(H26~)		658	うつくし作戦推進課	
		計	135,842		
II に森よる資源の活用	1 健全な人工林の循環と低コスト化の推進	1 再造林促進事業(H22~)	114,390	森林整備室	
		2 優良竹林化・利活用推進事業(旧:荒廃竹林整備・利活用推進事業)(R3~)	5,082	林産振興室	
	2 森林資源の利活用推進	3 竹産業等振興対策事業(H24~)	154	林産振興室	
		4 伝統工芸品産業振興事業(R2~)	500	商業・サービス業振興課	
		計	120,126		
III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組	1 里山林の保全活動の推進	1 魅力ある景観づくり推進事業(H25~)	5,000	都市・まちづくり推進課	
	2 森林ボランティア活動の促進	2 みんなで支える森林づくり推進事業	7,189	森との共生推進室	
		①森林づくりボランティア支援センター事業(H18~)	2,980		
		②森林づくり提案事業(H18~)	1,578		
		③山村多面的機能発揮対策事業(H28~)	168		
	3 森林林業教育・森林ESDの推進	3 森林・林業教育促進事業	④新たな森林づくり推進体制整備事業(H18~)	999	
			①森林林業教育促進事業(R3~)	14,905	森との共生推進室
			②森林林業教材作成事業(R3~)	4,070	
			③森の先生派遣事業(H19~)	985	
			④名樹とのふれあい事業(H25~)	5,485	
		⑤次代の森林づくり活動リーダー育成事業(H18~)	1,141		
		4 森の子学校体験活動推進事業(R4~)	2,156	社会教育課	
		5 森林環境学習促進事業(H18~)	5,129	社会教育課	
	6 未来の環境を守る人づくり事業(H28~)	3,159	うつくし作戦推進課		
4 森林づくりへの理解を広げる取組	7 全国育樹祭開催事業(R1~)	2,212	うつくし作戦推進課		
	8 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業(R3~)	3,606	全国育樹祭推進室		
	9 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業(H29~)	1,166	高校教育課		
	計	2,250	自然保護推進室		
		計	44,616		
		※総事業費	300,584		

※総事業費とp.2 R4大分県森林環境税の執行状況 合計額の差は、「環境林整備事業」がR3年度繰越事業のため。

I - 1 災害に強い森林づくり推進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、皆伐後に再造林されずにそのまま放置される再造林放棄地や、獣害が多発する森林では、成林できず公益的機能が低下した森林が発生している。

(2) 目的

河川沿いにおける流木発生の危険性が高い森林や、崩壊の危険性がある急傾斜地の再造林放棄地及び獣害により成林が妨げられ土砂の流出が懸念される森林を対象に森林整備を行い、山地崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

(3) 事業内容

①河川沿いの森林整備

流木災害発生の恐れがある人工林を更新伐により伐採し、流木の発生を未然に防ぐ。

伐採後は、自然植生の回復等により広葉樹林化する。

②獣害多発地の整備

土砂災害等の発生が懸念される成林が妨げられた森林において、初期成長に優れている早生樹を植栽し獣害リスクの軽減を図り、成林した森林を造成する。

3 成果

①河川沿いの森林整備

更新伐により、人工林を伐採し、流木発生を抑制するとともに広葉樹林化を図った。

〔森林整備面積〕

年度	H30	R1	R2	R3	R4	合計
計画	25ha	32ha	38ha	25ha	25ha	158.0ha
実績	35.5ha	35ha	37ha	30ha	37ha	158.5ha

② 獣害多発地の整備

本事業の実施候補地の選定調査を行ったが、実施要件等に合致した現場が見つからなかったことと、公共造林事業のメニューで代替可能であったため、R4年度は事業未実施となった。

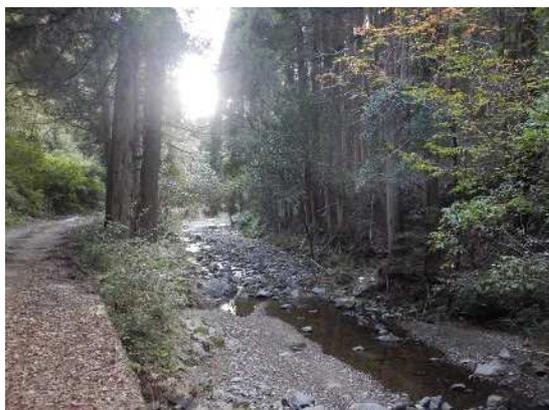
〔植栽面積〕

年度	R2	R3	R4	合計
計画	3.0ha	3.0ha	3.0ha	6.0ha
実績	1.0ha	0.68ha	0ha	1.68ha

4 今後の課題と取組

河川沿いの森林整備による広葉樹林化を引き続き県内全域で展開するとともに、治山事業の危険木除去事業と連携した流域単位での流木対策を進めることで、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

5 実施状況写真（河川沿いの森林整備）



(実施前)



(実施後)

【施業地】佐伯市弥生大字堤内

I - 2 環境林整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内のスギ・ヒノキ人工林の中には、拡大造林政策等により、木材生産に適さない急傾斜地の尾根谷部にまで植林されたものがある。

そのような森林は、伐採後の再造林やその後の手入れが十分に行われないうまま管理が放棄されるおそれが高く、台風や局地的豪雨等による林地崩壊等の発生も懸念されるため、針広混交林化などによる、公益的機能を重視した森林への転換が求められている。

(2) 目的

台風や局地的豪雨などの自然災害による被害を軽減するため、木材生産に適さない急傾斜地の尾根谷部について、広葉樹林化を推進することで、森林の公益的機能の高度発揮を図り、災害の発生を防止するための環境林を造成する。

(3) 事業内容

木材生産に適さない概ね傾斜 35 度以上の尾根谷部の人工林において、広葉樹による再造林を実施した森林所有者等に対し、大分県森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

急傾斜地の尾根谷部における広葉樹林化が進められた。

〔環境林整備事業の計画及び実績〕 【単位：ha】

年度	R 3	R 4
計画	10	10
実績	0	7

4 今後の課題と取組

各市町村及び森林組合等を通じて、木材生産に適さない人工林の針広混交林化や広葉樹林化の普及啓発をさらに進め、公益的機能の高い環境林の造成をさらに推進する。

5 実施状況写真



I-3 安全・安心な道路環境創出事業

【道路保全課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

道路沿線の森林は、道路と自然が調和した良好な景観の形成や運転者の快適な道路利用を促進する効果がある。

しかし近年、土地所有者の責任で管理すべき森林が、「所有者の高齢化」や「森林の大径化」等により、伐採の個人対応が困難となり、適切に管理されていない状況である。これにより、台風・豪雨時には多くの倒木被害が発生し、孤立集落の発生や災害復旧活動への妨げが大きな問題となっている。

（2）目的

災害発生時に、倒木により道路を塞ぐなど甚大な被害につながる恐れのある樹木を対象に事前伐採を行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化の取り組みを推進する。

（3）事業内容

県管理道路の沿線において、倒木により甚大な被害につながる恐れのある樹木の伐採を行う。

3 成果

県管理道路沿線の事前伐採により、安全・安心な道路環境の創出や防災力の強化を図った。

令和4年度事業実施路線一覧表

国東市	赤根富来浦線	1箇所
佐伯市	日之影宇目線	1箇所
豊後大野市	中津留轟牧口停車場線	1箇所
豊後大野市	中土師犬飼線	1箇所
竹田市	久住高原野津原線	1箇所
日田市	国道212号	1箇所
日田市	玖珠天瀬線	1箇所
日田市	大鶴熊取線	1箇所
日田市	国道386号	1箇所
中津市	国道212号	1箇所
宇佐市	国道387号	1箇所
計	11路線	11箇所

4 今後の課題と取組

今後も、倒木発生時に「孤立集落の発生」や「災害復旧活動への妨げ」となる樹木の事前伐採を優先的にを行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化に努める。

5 実施状況写真

中土師犬飼線（豊後大野市大野町長畑）



(実施前)



(実施後)

国道 212 号（日田市大山町西大山）



(実施前)



(実施後)

国道 386 号（日田市大字夜明）



(実施前)



(実施後)

I - 4 鳥獣被害総合対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる林業被害は県内で約 2,400 万円に上り、横ばい傾向で、地域によっては依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等、生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる林業・森林生態系被害は県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されていることから、シカ捕獲の強化を行い、シカを適正な生息密度まで減少させることにより、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

シカの適正管理に向けた生息密度調査を実施するとともに、シカの捕獲報償金の上乗せ助成により捕獲圧強化を図り、生息密度及び被害の低減に向けた取組を推進する。

また、狩猟免許取得者を対象に、技術向上を目的としてスキルアップセミナーを実施し、より効果的な捕獲を推進する。

3 成果

捕獲報償金による捕獲強化が図られ、シカの適正管理及び被害防止に資する取組を推進することができた。

令和 4 年度捕獲報償金事業実績：38,339 頭

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカによる農林業被害は多く、適正な生息密度より高い状況にあり、引き続きシカ捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

再造林地やクヌギの萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き、シカによる被害及び生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に取り組む。

I-5 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【循環社会推進課】

1 実施主体

地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害であり、流木等の回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	場所	参加者数(人)	回収量(m ³)
NPO法人 水辺に遊ぶ会	三百間海岸・大新田海岸	458人	3.8m ³
長洲アーバンデザイン会議	長洲海岸	600人	10m ³
天津地域づくり協議会	宇佐市宮熊・布津部海岸	292人	30m ³
一般社団法人 Mfisea	ビーコンプラザ	50人	環境学習会
佐伯市観光協会 上浦支部	瀬会海岸、福泊海岸、 浦戸海岸	230人	50m ³
NPO法人国東市手と手とまちづくり たい	国東市内海岸	500人	3.5m ³
大分県漁業協同組合 臼杵地区	臼杵市内各海岸	480人	54m ³
間越地区活性化推進協議会	間越海岸・米水津湾	131人	20m ³
日本風景街道 別府海岸・国東半島 海への道推進協議会	大分、別府、日出、杵築、 国東、豊後高田の海岸	312人	3.2m ³
NPO法人 ABC 野外教育センター	住吉浜海水浴場	74人	0.5m ³
ばんちゃの会	板知屋～上浦海岸	74人	5.31m ³

3 成果 第Ⅲ期(平成30年度～)の実績数値

年度	H30	R1	R2	R3	R4
参加者数(人)	4,572	4,399	1,717	3,968	3,201
実施団体数(団体)	8	8	6	13	11

4 今後の課題と取組

令和4年度は申請団体数が11件と令和3年度よりは減少したが過去2番目の採択数となった。令和3年度の新規申請された8団体のうち、半分の4団体が令和4年度も

本事業に参加した。また、令和4年度では新規申請団体が2団体あり海岸清掃への取り組みが継続化及び活発化してきている。継続した海岸保全は沿岸部住民による自発的な取組によるところが大きい。一方で、近年川から流れ出るごみが多いという調査結果も出ており、海岸ごみの発生源になる内陸部住民にもごみ問題への認識を深めてもらう必要があることから活動を通じて、森・川・海の流域全体を保全する意識の醸成を図ることとしたい。

5 実施状況写真



佐伯市観光協会上浦支部 瀬会海岸・福泊海岸・蒲戸海岸

I-6 森と海をつなぐ環境保全推進事業

(流木等被害対策緊急防除事業)

【漁業管理課】

1 実施主体

大分県漁業協同組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

台風、豪雨等により河川沿いの森林などから流出し、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等が、漁業活動（操船、操業）の妨げとなり、回収・処理作業が終了するまで、漁業者は出漁することができない事例がある。

流木等の漂着ごみの回収・処理は、施設管理者や海岸管理者が実施する責務を有するが、処理数量の把握、業者の選定などに多大な時間を要することから、迅速な対応が困難となっている。

(2) 目的

漁港や港湾内などに漂着・滞留する災害由来流木等は、漁業活動の障害となるため、漁業者自らによる迅速な回収作業を推進することで、漁業被害の防止・軽減を図る。

(3) 事業内容

大分県漁業協同組合が実施する、流木等の回収に対して支援。

3 成果

令和4年度は9月の台風14号で流木が発生し、大神漁港で流木除去を行うことで漁業被害を防止した。

年度	H30	R1	R2	R3	R4
実施箇所数(港数)	3	1	5	—	1
処理量 (m ³)	174	1,338	235	—	4.5 トン

4 今後の課題と取組

豪雨災害等による流木の発生状況調査を実施したうえで、漁業関係者と連携しつつ、優先度の高い地域から順に被害の防止・軽減に努める。

5 実施状況写真 (令和4年大神漁港)



(実施前)



(実施後)

I - 7 豊かな水環境保全推進事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、県内の河川の水質環境は改善傾向にあるものの、豊かな水環境を育むための、森林保全活動や河川及び海の美化・清掃活動等については、特定の住民や地域に限定されているなど、水環境保全を目的とした環境学習に対する関心度には地域によって偏りがある。

(2) 目的

モデル河川の流域住民が主体となる流域会議で、それぞれの流域の課題に応じた水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を図る。

(3) 事業内容

①流域会議が行う河川保全活動への支援

- ・各流域の地域課題解決に向けた学習会の実施
- ・流域毎の課題に即した有識者や専門家の派遣
- ・川でのイベントとあわせた体験学習の実施

②川づくりを担う次世代の育成

- ・環境学習への資機材の提供と指導者派遣
- ・各モデル河川における流域会議の開催

③第4回アジア・太平洋水サミットへの出展

- ・令和4年4月23～24日開催のアジア・太平洋水サミットへの出展

3 成果

〔流域会議〕

事業個所	流域会議 開催回数	イベント名	参加者数 (人)
筑後川	0	パックテスト等による環境学習	100
大分川	6	宮川外来水草除去作業	44
		金鱗湖美化プロジェクト	31
		はさましらべ	33
		河川清掃	130
犬丸川	1	こども調査隊	147
合計	7回		485

4 今後の課題と取組

《課題》

- ・ 流域毎の活動の自立と流域内外における連携促進
- ・ 流域会議における活動の定着
- ・ 地域住民に対する水環境へのさらなる理解促進
- ・ 活動団体の高齢化に伴う担い手の確保

《取組》

- ・ 流域会議が行う河川保全活動への支援

5 実施状況写真



①アジア・太平洋水サミット



②大分川 河川清掃

Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内の人工林は利用期を迎えており、合板・集成材等の需要の増大に加え、木質バイオマス発電施設の稼働も追い風となり、国産材需要は増加傾向にある。

それに伴い、主伐も増加傾向にあることから、持続的な林業経営を行うためには、主伐後の確実な再造林が求められている。

(2) 目的

林業適地における疎植造林（低コスト再造林）を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000～2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、大分県森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

本事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積が増加し、再造林放棄地は減少している。また、平成 21 年度は県内でのスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44%であったが、令和 4 年度は 98%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〔再造林促進事業の計画及び実績〕

【単位：ha】

年度	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4
計画	850	1,000	1,000	926	950
実績	823	674	796	759	934

4 今後の課題と取組

各市町村及び森林組合等を通じて、低コスト再造林の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 優良竹林化・利活用推進事業

【林産振興室】

1 実施主体

森林組合、タケノコ生産団体、竹材生産者等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。

(2) 目的

竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

竹材、タケノコ生産地として持続管理や竹チップ等の利活用を推進するための竹林整備及び簡易作業路開設等を行う。

3 成果

タケノコ・竹林生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 伐竹等整備

4.14ha (大分市、臼杵市、豊後大野市、日田市、宇佐市)

② 簡易作業路開設

400m (大分市、日田市)

4 今後の課題と取組

竹林を有効活用するため、たけのこ生産竹林楽校等の取組により竹林整備の担い手を育成するとともに、優良竹林化の事業を継続し、タケノコ及び竹材の生産振興とともに竹林の整備を推進する。

5 実施状況写真



Ⅱ-3 竹産業等振興対策事業（竹林楽校）

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（林産振興室）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

本県は全国2位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

（2）目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

（3）事業内容

- ①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等
研修生22名／研修3回実施
- ②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて2回開催
竹工芸訓練センター訓練生12名
大分林業アカデミー研修生 8名

3 成果

たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター訓練生および大分林業アカデミー研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。

第2回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の2コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いPRを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と、人材確保を推進する。

5 実施状況写真



Ⅱ－４ 伝統的工芸品産業振興事業

【商業・サービス業振興課】

1 実施主体

(主催) 全日本竹産業連合会、一般社団法人大分県竹産業文化振興連合会

(後援) 林野庁、大分県、別府市、一般社団法人全国燃料協会、一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

伝統的工芸品産業全体の年齢構成が高齢化し、後継者が不足している。特に竹業界では、川上である「切り子」が高齢化により激減しており、原竹の一次加工業である製竹業が衰退傾向にある。

また、SDGs に則し、環境に優しく二酸化炭素削減に貢献する「竹」を、資源として再活用することが検討されている。そのほか、竹筋コンクリート等新たな可能性のある素材の新たな活用方法が開拓されつつある。

(2) 目的

竹製品の開発・竹文化の継承発展や、竹業界における相互の連携強化を図ることを目的とした、全日本竹産業連合会主催「全国竹の大会」を大分県で開催。

なお、本大会は毎年、竹産業が盛んな都道府県が持ち回りで開催している。

(3) 事業内容

- ・第63回全国竹の大会の開催

【日時】令和5年2月17日(金) 13:00～

【場所】別府国際コンベンションセンター (B-Con Plaza)

【内容】式典・感謝状贈呈式・記念講演・パネルディスカッション等

3 成果

新型コロナウイルスの感染拡大により3年ぶりの開催となった今回の大会には、全国から100名以上の竹産業関連事業者が参加した。

式典では、林野庁特用林産対策室室長を始め、県やタイ国等の様々な関係機関の来賓があり、これまでに功績のあった竹産業事業者へ感謝状等の贈呈を行った。

また、記念講演やパネルディスカッションにおいては「つなごっちゃ 竹みらい」の大会テーマのもと、竹産業における課題の提起が行われ、竹産業を未来に繋ぐための事業継承や後継者育成、持続可能な新しい資源としての利活用方法が話し合われた。

4 今後の課題と取組

次世代の竹産業を担う人材の確保は最も重要な課題である。本事業等を活用しながら、国や県、市町村、竹産業関係団体等が一体となって、後継者育成や事業継承等の活動に取り組んでいく。

5 実施状況写真



(大会式典)



(記念講演)



(パネルディスカッション)

Ⅲ－１ 魅力ある景観づくり推進事業（景観伐採事業）

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

4市（中津市、佐伯市、竹田市、宇佐市）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

（２）目的

観光ルート沿線等において、景観の支障となっている樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

（３）事業内容

景観の支障となっている樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	平田吉胤頌徳碑前（中津市）、城山歴史公園（佐伯市）等 4市5箇所	1 / 2 以内

3 成果

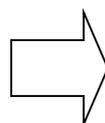
- ・観光ルート沿線等の景観が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や遊歩道の整備が行われる等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合、協力を得られないケースがある。景観の再生につながった事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真

〈仙の岩（宇佐市）〉



Ⅲ－２ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1. 新たな森林づくり推進体制整備事業

(1) 実施主体

大分県

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

②目的

大分県森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、県森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による県森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

③事業内容

・「大分県森林づくり委員会」の開催

令和4年度は第4期大分県森林環境税の2年目であり、第4期の県森林環境税の活用を円滑に推進するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R4.6.29	・令和3年度森林環境税活用事業の実績 ・令和4年度森林環境税活用事業の予算概要
第2回	R4.10.19	・令和5年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R4.12.22	会議 ・国の森林環境譲与税について 現地視察 ・九重青少年の家（森林・林業教育の取組） ・九重町田野（再造林促進事業現地）

・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う「森林づくり提案事業」の審査や事業成果の検

証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部・大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業)の審査、実績の検証 ・意見交換等	書面決議

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催 (R4年度 3回開催)

森林の持つ多面的機能を高度に発揮させるため、本県の50年後のあるべき森林の姿と、森林環境税を活用した災害に強い森林づくりや低コスト再造林の推進などの、次世代の大分森づくりビジョンの取組状況についての報告と検証、及びビジョンの見直しに向けた議論を行った。

(3) 成果

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、書面により各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、大分県の森林づくりにかかる課題・取組状況・成果を包括的に検証し、ビジョンの見直しに向けた方向性を整理することができた。

(4) 今後の課題と取組

多くの県民に大分県森林環境税や森林づくりに対する興味・関心を持ってもらうため、令和4年度に当県で開催された全国育樹祭を契機として、一層の県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGsや脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

2. 森林づくりボランティア支援事業

(1) 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、令和3年度の参加者数は前年度と同水準を推移した。(令和4年度参加者数：11,769人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

②目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

③事業内容

・森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

ア 森林ボランティア情報の発信



【センターHP】



【ボランティアセンター通信】

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和4年度は50回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



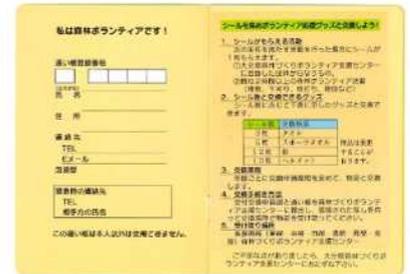
森林づくり活動実績に応じて、令和4年度はタオル・鎌・鋸などの支援物74点を32名に交付した。



【支援物品】



【森林づくりボランティア通い帳】



ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育講座（チェーンソー）」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」によって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

【研修の様子】

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	4人	伐木作業の基礎知識。実習等
刈払機	1日×2回	2人	刈払機の基礎知識。実習等



〈実習〉



〈学科講習〉

【令和4年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO 法人グリーンインストラクターおおいた
1) 森林ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報の発信（50回更新 / 年） ・「大分県森林づくりボランティア支援センター通信」の発行（1,000部 / 月） ・森林づくりフィールドの募集および情報提供 （① フィールド情報を募集②現地調査情報を登録③団体、企業等に斡旋）
2) 森林ボランティアの登録（新規 個人49名、団体1組）
3) ボランティア通い帳の発行（49冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 相談対応4件・・・自然観察会の開催等 情報提供2件・・・二酸化炭素削減に関わる団体の情報提供等
5) 森林づくり活動支援（人材斡旋16回、73人）
6) センター施設を利用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・施設利用団体：10団体 ・年間利用者数：836人（累計）

・森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

令和4年度 森林づくり提案事業実績

局	整理番号	活動団体名	活動場所 (市町村)	活動内容	新規 継続	活動者数
東部	1	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	継続	81
	2	護町会	杵築市	竹林整備	継続	48
						129
豊肥	1	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	継続	116
	2	特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	継続	61
						177
西部	1	200海里の森づくり実行委員会	日田市	森林づくり活動	継続	100
						100
北部	1	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林づくり活動、森林環境教育活動	継続	32
						32
総計					6団体	438



草刈作業（豊後大野市）



森林教室（中津市）

・ **森林山村多面的機能発揮対策事業**

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する（実施団体：11団体）

令和4年度市町村別活動団体数

大分市	4団体
由布市	4団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体

・ **企業参画の森林づくり推進事業**

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和4年度までの協定締結企業は34社となっており、1社が協定を締結した。

〈令和4年度 協定〉

- ・ 日本フォレスト株式会社



【植樹の様子】

（3）成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では6団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ11,769人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人（人）	参加者数（人）	目標参加者数（人）	達成率
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%
R4	106	2,932	11,769	13,500	87%

（４）今後の課題と取り組み

新型コロナウイルスの影響で活動を縮小・休止する団体もあったが、感染予防のガイドライン等を周知し、森林ボランティア参加者数の維持につとめた。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

3 おおいたの森林づくり広報推進事業

（１）実施主体

大分県

（２）実施事業の概要

①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

②事業内容

マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 5回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 2回（森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）
- ・ 「九州エコファミリー応援アプリ（エコふぁみ）」内お知らせへの掲載

【Facebook ページイメージ】



その他の広報活動

- ・大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布（各2500部）
- ・各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。（R4もりりん貸出し回数：6回）
- ・「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・森の先生派遣事業チラシの作成
- ・県で開催された「令和4年度全国育樹祭」開催にあたって、ラジオ番組出演、新聞広告等を通じて森林環境税事業の周知を行った。



【森の先生チラシ】



【ガイドマップ】



【タペストリー】

【環境税チラシ・パンフレット】

【PR用ばんそうこう】



○PRの様子

【もりりん着ぐるみによるPR】



【農林水産祭でのPRブース】



(3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い（認知度は50%）。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。

Ⅲ－３ 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

1 森林林業教育促進事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

その他、体験型子ども科学館 0-Labo と連携した森-Labo を実施し、公募による森林・林業体験講座を実施。

③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月2日（土） 10:00～15:00	大分県森林づくりボランティア支援センター外	身近な自然と友達になる方法	樹木医 森林インストラクター 石井 誠治氏	30
2	8月27日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりボランティア支援センター	「大分の森林・林業」	大分県林務管理課 主査 小関 崇氏	26
3	9月3日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりボランティア支援センター	木材のすすめ ～環境に優しい木質材料～	大分県林業研究部アドバイザー （農学博士） 城井 秀幸氏	24
4	12月12日（月） 9:15～16:00	① 農林水産研究指導センターきのこグループ ② 佐伯広域森林組合	① しいたけ栽培と流通 ② 木材の流通と加工	きのこグループ（甲斐副主幹） 森林組合（各担当）	21
5	1月14日（土） 10:00～12:30	大分県林業会館新館	① 学習指導要領における「森林・林業」の位置付けと教育活動 ② 「森林ESD」の考え方と進め方	① 京都教育大学 教授 山下 宏文氏 ②（一社）東京学芸大explay ground推進機構 木俣知大氏	26
6	2月25日（土） 10:00～15:00	① 高尾山自然公園 ② 大分県森林づくりボランティア支援センター 研修室	自然観察会など森林・林業体験学習活動の進め方	森林・林業教育指導者 ① 渡辺 政治氏(全般) ② 江口 初男氏(野鳥) ③ 瀬口 三樹弘氏(樹木)	28
			修了式		

○体験フィールドの選定（3箇所）

- ・場 所 九重青少年の家、香々地青少年の家、県民の森
- ・対象者 小学生、中学生
- ・テーマ 人工林と天然林、また標高差などそれぞれのフィールドで、そのフィールドの特徴を活かし、自然体験を通じて自然の楽しさ、不思議さを感じる

○森林・林業教育プログラムの実施（3回）

- ・森の子学校体験活動推進事業（社会教育課）における森林・林業教室（森林への興味・関心向上、森林に親しむ、椎茸と林業、森と海のつながり、林業地観察 など）

○体験型森林講座森-Labo の開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月24日（日） 13:30～15:30	大分県森林づくりボランティア 支援センター	木を科学する ～木のオモシロ実験～	大分県農林水産研究指導センター 林業研究部 アドバイザー （農学博士） 城井 秀幸氏	11
2	8月20日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	この木なんの木？ ～森の木で遊ぼう～	森林・林業教育指導者 渡辺政治氏、鬼塚隆子氏	11
3	9月25日（日） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	「きのこってどんな生き物？」	大分さのこ会 波多野 英治氏 波多野 敦子氏 高倉 芳樹氏 （農学博士） 村上 康明氏	34
4	11月19日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）	秋は木のタネがおもしろい！	森林・林業教育指導者 渡辺政治氏、鬼塚隆子氏	16
5	12月17日（土） 10:00～12:00	高尾山自然公園（大分市）及び 大分県森林づくりボランティア 支援センター	「野生動物のフィールドサインを探 そう」	応用生態技術研究所長 足立 高行氏 大分県環境教育アドバイザー 森田 祐介氏	10
6	1月15日（日） 13:30～16:00	大分県森林づくりボランティア 支援センター	家の木造模型を作ろう	一級建築士 板場 奈美氏 〃 高橋 由美氏 〃 淵 智子氏 大工棟梁 光井 智 氏	18
				(延べ) 15名	100

④ 実施状況写真

- ・研修会開催の様子



【研修会開催状況】



【現地実習】

・プログラム実施の様子



【樹木オリエンテーリング】



【椎茸生産と林業について】

・森-Labo 開催の様子



【きのこってどんな生き物？】



【木造模型をつくろう！】

（3）成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者30名を育成することができた。
- ・森林・林業教育プログラムを作成・実施し、森林や林業への興味・関心を高める取組を検討できた。
- ・一般公募による森-Labo を開催することで、森林・林業に興味を持つ子ども達を広く募り、学びを深めることができた。

（4）今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、今後も学校教育における森林・林業教育の位置づけを理解し、森林・林業教育を実施できる指導者の育成を行うとともに、指導者の活躍の場の創出に努める。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、引き続き森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

2 森林林業教材作成事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

(2) 実施事業の概要

① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらおう環境を整備した。

また、県内各地の「森づくりのストーリー」を動画として取り上げることで、様々な人たちが森づくりに関わり、取組を継続していることについて学ぶ教材を制作した。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

(3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

(4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

3 森の先生派遣事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

(2) 実施事業の概要

① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 2	R 3	R 4
派遣回数	81回	78回	102回
派遣人数	397人	410人	497人
森林体験者数	3, 217人	2, 926人	3, 898人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 2	R 3	R 4
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	37人	46人	23人

④ 実施状況写真

・森林体験学習の様子



【自然観察会】



【別府大学での研修会】

- ・研修会の様子



【ネイチャー・フィーリング】



【森の先生ノウハウ共有会】

(3) 成果

- ・保育所や幼稚園、小・中・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を102回派遣し、3,898人が森林体験活動を体験した。
- ・令和4年度は森の先生を対象に研修会を行い、実際に学校現場で働いている方を講師として、現状に即した子どもたちへの接し方を学んだ。また、別の研修会では、森の先生同士でノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

(4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、将来的には学校関係者にも参加してもらい、知識を共有する。

4 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体

市町村、大分県

(2) 実施事業の概要

①目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

②事業内容

- I 樹木医の診断に基づく樹木の治療
 - ・不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
 - ・踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など
- II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

③R4実績

- ・治療 2件 別府市：火男火売神社の森 イチイガシ、
竹田市：城原神社の森 イチョウ
- ・樹木医診断 1件 津久見市：ウバメガシ
- ・標柱・標識の設置 2箇所 国東市：2箇所

(3) 活動状況写真

①イチョウ（竹田市）の治療



治療前（他植物の浸食）



治療後（剪定）

②イチイガシ（国東市）の標柱設置



設置の様子

③樹木医による診断の様子（津久見市：ウバメガシ）



- ・ 診断に基づき診断書を作成

(4) 今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



5 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

(1) 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

②目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

③事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施する。



【植樹活動】



【苗木育成】



【全国育樹祭参加】

「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施する。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和4年8月9～10日

※新型コロナウイルスの影響により中止

○参考 実施状況写真（令和3年度）



【活動発表】



【森林での体験学習】



【記念撮影】

「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和4年7月27日～29日（2泊3日）

※コロナにより中止

○参考 実施状況写真（令和元年度）



【屋久島環境文化村センター】



【志戸子ガジュマル園】

（3）成果

- ・少年団の地域活動への支援を行い、活性化を図った。
- ・新型コロナウイルスの影響で、「つどい」と「リーダー育成研修」は中止となった。

（4）今後の課題と取組

地域活動の内容を共有できる場が少ないため、活動発表の場を設ける。また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。

Ⅲ－４ 森の子学校体験活動推進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県教育委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・子どもの体験活動の充実
体験活動を推進することによる児童生徒の自己肯定感の向上
森林学習は様々な SDGs に貢献、気候変動・災害と密接に関連
- ・大分県の林業の課題
人工林への対応・災害に強い森づくり・担い手育成
- ・学びと連動した体験活動
理科・社会などの各教科と関連付けた森林の役割や保全の学習

(2) 目的

社会教育施設である青少年の家を活用し、学校教育と連動した事前学習、直接体験、事後学習からなる学習プログラムを実施することにより、次世代を担う子どもたちへの森林・林業教育の推進を図る。

(3) 事業内容

- 1 森林・林業教育プログラムの体系化
(1) プログラム委員会 (2) フィールド整備
- 2 モデル校によるプログラム実践
香々地・九重青少年の家での集団宿泊研修に森林・林業教育プログラムを活用する学校に事前学習・直接体験・事後学習からなる学習プログラムを提供とモデル校による森林・林業プログラムの実践

3 成果

県内小学校9校、中学校1校で森林や林業に関する事前学習・直接体験・事後学習を実施することで、学校教育での森林・林業教育を推進することができた。アンケート調査の「大分県の森についてよく知っている」等の質問項目に対して、事前アンケートに比べ事後アンケートで数値の上昇が見られた。

4 今後の課題と取組

広報を充実させるとともに、森林・林業教育プログラム実践協力校を拡充させる。

5 実施状況写真



樹木オリエンテーリング



林業従事者による講義



原木しいたけ栽培学習



事後学習の様子

Ⅲ－５ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習の機会が不足している。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化にともない、新たな指導者の養成が急務である。

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

(3) 事業内容

- ①幼児期からの環境学習に関する学習機会の提供
- ②森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③自然環境での運動（遊び）の推進

3 成果

緑の子ども園・緑の楽校（R4 から「森の子レンジャー」）事業満足度

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	90%	90%	90%	99%	99%
実績	100%	100%	99%	100%	100%

緑の探検隊（R4 から「森の楽校」）生きる力プラス変容（R3 から環境意識プラス変容）

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	7.0%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%
実績	11.4%	11.2%	12.2%	12.1%	14.9%

※独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した IKR 評価により数値化した、探検隊参加前後の、子どもたちの「生きる力」の増加率

※令和3年度より調査方法を IKR 評価から環境意識調査へ変更

森林の環境学習サポート隊 事業参加者

年度	H30	R1	R2	R3	R4
目標	700名	800名	800名	800名	800名
実績	1,092名	1,241名	348名	394名	441名

4 今後の課題と取組

次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。

また、子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。

子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



【森の子レンジャー】



【森で遊ぼう】



【森の楽校】



【森林の環境学習サポート隊】

Ⅲ－６ 未来の環境を守る人づくり事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、環境学習に取り組む団体もあるが、資金面の問題から単発的なものが多く、体系的な活動が困難な場合が多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

①おおいたこども探険団推進事業

年度	H30	R1	R2	R3	R4
採択団体数	15	12	8	9	9

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	H30	R1	R2	R3	R4
派遣実績（人）	153	165	96	114	153
受講者数（人）	8,750	8,696	3,486	5,822	7,169

4 今後の課題と取組

おおいたこども探検団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んでいく。

5 実施状況写真



①おおいたこども探検団推進事業
アソビLAB
(しいたけのコマ打ち体験)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業
(生き物調査)

Ⅲ－7 全国育樹祭開催事業

(全国緑の少年団活動発表大会及び交流集会)

【全国育樹祭推進室】

1 実施主体

第45回全国育樹祭大分県実行委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

・専属の指導者が不足する等、みどりの少年団を継続して活動できる体制が整っていない。

(2) 目的

本県で開催する全国育樹祭併催行事である「全国みどりの少年団活動発表大会」および「全国みどりの少年団交流集会」を行うことにより、県内少年団の活性化を図り、育樹祭後の少年団活動の推進に繋げる。

(3) 事業内容

- ・全国緑の少年団活動発表大会の開催
- ・全国みどりの少年団交流集会の開催

3 成果

令和4年11月12日に大分市の iichiko 総合文化センターiichiko 音の泉ホールにおいて、全国緑の少年団活動発表大会を開催した。全国から選出された緑の少年団と県内外の緑の少年団が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表することにより、相互研鑽を図るとともに、大会終了後の交流集会でのレクリエーションなどを通じて、少年団同士の交流を深めた。

4 今後の課題と取組

全国育樹祭の取組を一過性のものにせず、次代の森林・林業を支え担う人材の核として、みどりの少年団が行う活動をさらに活性化させる必要があり、引き続き活動支援を実施する。

5 実施状況写真

○全国緑の少年団活動発表大会



みどりの奨励賞表彰



活動発表

(大分県三郷小学校みどりの少年団)

○全国緑の少年団交流集会



全国緑の少年団交流集会

Ⅲ－８ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業

【高校教育課】

1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そんな中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施しており、大分県林業に貢献できる人材を育成している。今後さらに関連就職・進学を増やしていくことが求められる。

(2) 目的

県林業を牽引する担い手育成では、森林・林業管理の効率化・省力化が期待できるスマート林業を活用するなど、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域林業における課題意識を持たせ、その解決に向けた意欲喚起を行っていく。併せて、小中学生に対しても森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることに取り組む。

(3) 事業内容

①外部講師招聘授業

スマート林業として林業界における進出が著しいドローンの活用について外部講師を招聘し、グラウンドでのデモ飛行や演習林での3D測量等の体験を通して先進技術を学ぶ。

②GE（グリーンエデュケーション）事業 <小中学校への出前授業>

小中学生を対象に、環境と森林の関係や林業科の学習内容を理解してもらう。高校生が先生役となり、自らが教えることにより、自分たちが学んでいる林業についての理解を深める。

③事業所見学（ニチハ株式会社下関工場）

木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、望ましい職業観を養成し、進路選択の指針とする。

④国内研修（岡山県）

林業の先進県である岡山県で、スマート林業やバイオマス活用等による先進的かつ持続可能な森林・林業管理を学び、林業に関する知識や技術を向上させ、視野を広げるとともに思考を深める。また、他県の人々と交流を持つことで、産業における地域性を知るとともに、郷土愛等の醸成を図る。

3 成果

外部講師招聘事業では、ドローン測量に関する最新の技術や情報を学ぶことができ、専門科目「測量」や「総合実習」を中心に、生徒の見識を広めることができた。特に、演習林の3D模型製造では、楽しみながら学ぶ生徒が多かった。

GE事業では、日田市内の小中学校での出前事業を展開した。環境に関する授業や木工品製作（椅子づくり）を行うことで、小中学校の児童生徒や教員に対して林業科の取

り組みを紹介することができた。

国内研修は、林業に関する新たな知識を得る機会となり、最新のICT機器を活用した体験的な活動もあったことから、大変有意義だったとの声が多く聞かれた。教員にとっても、新たな知識・技術を体験的に学ぶ好機となった。研修で得た知識を授業や実習等に活かしていきたい。

2年生を対象としたアンケートでは、林業関連の就職・進学への関心が高まった生徒の割合は57.0%（昨年度56.7%）で、昨年並の水準を維持することができた。

4 今後の課題と取組

コロナ禍で研修先の選定と日程調整等が困難であったが、社会的なコロナへの対応が見直されることから、今後はコロナ禍以前のような研修が実施できると考えられる。スマート林業等の先端技術を学べる研修を実施し、生徒の林業への知識・技術向上を図りたい。国内の研修先については、岡山県以外も検討し、研修の質も高めていきたい。

5 実施状況写真



ドローンに関する研修（講義）



ドローン測量（現地での講習）



事業所見学

（ニチハ株式会社下関工場）



国内研修（バイオマス工場）



森林3次元計測システム
による測量（新見市）



「百年の森」構想
（西栗倉村）

Ⅲ－９ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業

【自然保護推進室】

1 実施主体

佐伯市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

祖母・傾・大崩エリアのユネスコエコパーク登録に伴い、登山者をはじめ、来訪者増加が想定されることから、安全性・快適性の向上など、受入れ環境の向上・改善が求められている。

(2) 目的

ユネスコエコパークエリア内に所在する老朽化した国定公園施設等を整備し、森林レクリエーション環境の改善と、自然と共生した地域振興を図る。

(3) 事業内容

- ・ 佐伯市藤河内溪谷の遊歩道の整備 (L=33.0m)

3 成果

老朽化した施設の改修などにより、安全性の確保や快適性の向上に寄与することができた。

4 今後の課題と取組

生態系の保全と、自然と調和した持続可能な地域の発展を図るため、今後も引き続き国定公園施設等について、保全・改修等を行っていく。

5 実施状況写真

